

2024年度 帯広コア専門学校 自己評価報告書

1. 実施方法

学校長指示の下、事務長により評価表を作成し、それぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1（不適切）、2（やや不適切）、3（ほぼ適切）、4（適切）」の4段階評価とし、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価 結果（状況・課題等）

基準1 教育理念・目的・育成人材像等		評価	前回
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	3.2	3.2
【1-2】	学校の特色は何か	3.1	3.1
【1-3】	学校の将来構想を抱いているか	2.9	2.9
十勝唯一の総合高等教育機関として地域社会の変化そして将来を見つめ、常に”学校の価値”を考え、教育の変革を模索している。急速に進む人口減少・少子高齢化、テクノロジーの発達、産業構造や社会システムの変化の中、本校における教育サービスの変革が必要であると認識しています。18歳年齢の減少、大学進学率の増加など今後もその影響は大きくなっていきます。 本校は、従来在学生に対する教育を中心に実施してきましたが、今後は、教育サービスの提供対象の拡大にチャレンジしています。2024年から開始した毎週木曜日放課後の社会人向け ICT 学び合いコミュニティ「とかち DX Lab」の継続&発展、さらに小学生、中学生向けの ICT 学び合いクラブ「とかち DX Lab ジュニア」を 2025 年夏からの開始に向けて準備中です。 また、地域の経済維持&発展に向けては、外国人材の活躍が必要と考え、日本語学校との連携をはじめ、地域の企業・団体と連携して外国人との共生環境の構築に向けた教育サービスにチャレンジして行きます。 本校のミッションは、「地域の HUB」と定義しており、さらに学校内での意識向上を図り、地域社会とのコミュニケーションを活発化させて行きます。			

基準2 学校運営		評価	前回
【2-4】	運営方針は定められているか	2.7	3.1
【2-5】	事業計画は定められているか	2.7	2.8
【2-6】	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3.0	3.3
【2-7】	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2.5	2.5
【2-8】	意思決定システムは確立されているか	2.9	2.7
【2-9】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.7	2.9
本校が運営する専門職分野(学科)毎に教育サービスの変革に向けた方針を明確にして事業計画を定めている。情報学科は、「地域の ICT リテラシー向上」を中核したカリキュラム構成とし、最新の ICT サービススキルの獲得を目指している。歯科衛生士科と介護福祉科は、無論、国家試験合格がゴールであるが、対人スキルの獲得を目指している。医療ビジネス科は、資格取得の変化へ対応した教育サービスのあり方を地域社会と連携しながら再構築に挑んでいる。 学校経営は、在学生の減少から非常に厳しい状況にある。教職員の処遇改善などは、物価高騰など社会の変化に全く対応できていないのが実情である。まずは、業務の効率化の実現に向けて Google や Microsoft の各種サービスの導入を拡大し、教職員各自の時間を捻出し副業などの機会も提供したい。さらに従来のビジネスモデルからの変革が急務であり様々なチャレンジへの取り組みへのモチベーション向上を計って行きたい。			

基準3 教育活動		評価	前回
【3-10】	各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.1	3.2
【3-11】	修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3.0	3.2
【3-12】	カリキュラムは体系的に編成されているか	3.3	3.3
【3-13】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3.4	3.4
【3-14】	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	2.9	2.8
【3-15】	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4	3.2
【3-16】	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.7	2.6
【3-17】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.4	3.4
【3-18】	資格取得の指導体制はあるか	3.2	3.5
全学科で年2回の教育課程編成委員会を開催し委員からの意見を参考にカリキュラム構成の検討を継続している。また、地域の産業動向や社会環境の変化を常に吸収する意味で教職員にも各専門分野を中心に地域活動への参加を引き続き推奨している。 学科ごとの目的、使命を再認識し、それぞれの到達レベルに向けた指導方法と体制をさらに強化している。成績表や単位認定に関しては、システム化を推進し、より正確で公正であるよう改善を続ける。また、授業評価に関しては、年2回実施している学生アンケートの結果を真摯に受け止め改善活動に更に務める体制を強化する。 学生の学力、個性など多様性を尊重しながら、個別最適な指導を模索しているが、教員の負担が大きく、入学選考の在り方も含め、指導方法などについて検討を続け改善したい。			

基準4 教育成果		評価	前回
【4-19】	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3.4	3.2
【4-20】	資格取得率の向上が図られているか	3.1	3.3
【4-21】	退学率の低減が図られているか	2.5	2.9
【4-22】	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.7	2.8
就職率は、学生一人一人の個性を活かせるよう個別指導に取り組み直近3年間は、100%を達成できている。本校に寄せられる求人情報は、学内Web上でリアルタイムに学生にも共有しており就職活動を更に前倒しで実施するなど、より多くの就職の機会確保と学生自身の自立意識を高めて行きたい。 資格取得に関しては、これからの社会情勢を鑑み、取得を推奨する資格を見直し、学生自身の取得意識を高めるよう指導に更なる改善を図っている。 退学率の低減に関しては、学生の状況を積極的に把握・共有しながら個別の面談や指導などコミュニケーションを密に行っており、さらに学生自身の”学びたい”を引き出すよう努めている。ただ、”健康上の問題”、”進路変更”などでの退学、休学も一定数あり、募集および入学選考においても改善の機会があると考え入試制度の見直しも継続している。 在校生の社会的活動の評価は、表彰制度などを含め十手している。しかし、卒業生の社会的な活躍/評価については、十分な情報蓄積および評価ができていない。今後、同窓会等の活動と合わせ検討して行く。			

基準5 学生支援		評価	前回
【5-23】	就職に関する体制は整備されているか	3.2	3.3
【5-24】	学生相談に関する体制は整備されているか	2.9	3.0
【5-25】	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.0	3.1
【5-26】	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7	2.8
【5-27】	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.8	2.8
【5-28】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	2.0	2.5
【5-29】	保護者と適切に連携しているか	2.8	3.0
【5-30】	卒業生への支援体制はあるか	2.6	2.1
学生支援に関しては、入学時の特待生制度や半期ごとの成績優秀者への表彰など経済的な支援を行う制度がある。また、学内にハラスメント防止委員会を設置し、学内でのハラスメント防止に努めている。 学生の課外活動については、地域ボランティア活動など学生と地域社会との多様なコミュニケーションの機会を増やし相互理解に努めている。 保護者とのコミュニケーションには課題がある。出席や成績に問題がある学生の保護者との3者面談などは、積極的に行っているが、その他の保護者との連携が依然不十分である。保護者との連携については、継続してその在り方も含めて検討している。 また、PTAや同窓会、その在り方について改めてステークホルダーと連携して検討して行きたい。			

基準6 教育環境		評価	前回
【6-31】	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.6	2.6
【6-32】	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.9	2.9
【6-33】	防災に対する体制は整備されているか	3.1	3.1
開校40周年を迎え一部の校舎・設備の老朽化が大きな課題である。学校運営の在り方も含めて今後の施設・設備の在り方を検討している。その中にある校内ネットワーク設備の更新、WiFi導入、全教室へのエアコン設置などは、完了している。また、授業のデジタル化への取り組みも年々拡大できている。 学外実習やインターンシップなどは、コロナ規制の緩和により、実施する機会も確保できて来た。更に学生による出前授業の開催や学習成果を地域社会へ発信する学内セミナーなど積極的に実施する。特に、最新のICT技術を学生が学び地域社会へ発信する”Tech Lab授業”を継続拡大する。 防災に関しては、ハード面では、学内の設備点検、更新を適時行っている。また、ソフト面でも避難訓練の実施や啓発活動を充実させる。			

基準7 学生の募集と受け入れ		評価	前回
【7-34】	学生募集活動は、適正に行われているか	3.1	3.2
【7-35】	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.9	3.0
【7-36】	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.4	3.1
【7-37】	学納金は妥当なものとなっているか	2.6	2.9

18 歳年齢人口の減少と大学進学率の向上により、今後益々入学生の確保が苦しくなると認識している。本校で学ぶ専門職の地域社会でのプレゼンスの向上を地域社会と共に実現し、今後地域に必要とされる人材をしっかりと育てたい。

入学選考は、ボーダーフリー状況が続いている。本校ブランドを構築し入学希望者を選抜できる状況を目指して活動を継続する。

学納金については、毎年見直しを実施しており、教育サービスの変革も合わせて低減を進めて行く。

基準 8 財務		評価	前回
【8-38】	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.0	2.2
【8-39】	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.6	2.9
【8-40】	財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	3.7
【8-41】	財務情報公開の体制整備はできているか	3.4	3.5
学校運営に際しての財務基盤は安定域にあるが、在学生の減少により単年度における収支は非常に厳しい状況にある。中長期的な視点での教育サービスの変革が必須で、社会情勢の変化を見据えて教育対象者の拡大に向けて活動を継続中である。 予算の執行において、本校は適切に財務処理を行っており、財務情報も公開している。			

基準 9 法令等の遵守		評価	前回
【9-42】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	3.5
【9-43】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.0	3.2
【9-44】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.0	3.1
【9-45】	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.0	3.2
法令などへの対応は、北海道学事課を中心に確認・指導を受けている。個人情報管理に関しては、管理されたクラウド環境へのデータ移行を進めており、さらに管理を徹底する仕組みを強化して行く。また、学内の整理整頓や書類のデジタル化を積極的に推進し、情報管理の高度化を計画的に推進する。 自己点検項目については、社会の変化に対応した項目とすべく見直しを実施したいと考えている。自己点検項目および評価は、地域社会との連携強化に向けても必要な情報であるので積極的に公開して行く。			

基準 10 社会貢献		評価	前回
【10-46】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.4	3.4
【10-47】	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.4	3.3
社会貢献は、学生および学校にとって地域社会との大きな接点と認識している。学校施設も教育資源も地域社会へ広く開放し、学校を地域の人と人、企業と企業をつなぐハブとなるよう活動を継続して行く。学校施設の開放では、各種の地域コミュニティでご利用頂いている。また、教育資源も出前授業や学内セミナーなど今後更に機会を増やして行く。 在学生のボランティア活動に関しては、参加に対する啓発を行いながら、参加機会の増加に努める。			

以 上

